

工業系高校の

保護者向け 現場見学会について

熊本県建設業協会青年部 会長 末吉 大吉

はじめに

2022年に30周年を迎えた我々熊本県建設業協会青年部は、45歳未満の経営者や後継候補者で組織し、現在、88人の部員で活動しています。

近年は、人手不足の解消や若手の入職促進に向けた広報・イメージアップ事業に注力しており、各種イベントへの建設業ブースの出展、高校生に対する現場見学会や施工実習などを実施していま

す。また、行政機関との意見交換会を定期的に行い、諸課題の解決に向けた連携強化を図っています。

今年度は「温故知新」をテーマに据え、長い歴史と伝統を尊重しつつ、若い世代がもつ新たな知恵や発想を生かして、建設業界の新たな時代を切り拓こうと奮闘しているところです。

開催に至った背景・動機

少子高齢化による若年労働力の減少や、熟年労働者の引退など、人手不足は喫緊の課題となっています。特に地方の中小建設業者で顕在化しており、現場は待ったなしの状況です。

我々はこれまで、県内の工業高校生を対象とした現場見学会や施工実習を毎年開催し、建設業の魅力発信、業界のイメージアップに努めてきました。ただ、高校生へのアンケート調査で、進路選

択の際に保護者へ相談する割合が圧倒的に高いことを知り、保護者の理解促進に向けたアプローチも重要だと認識しました。

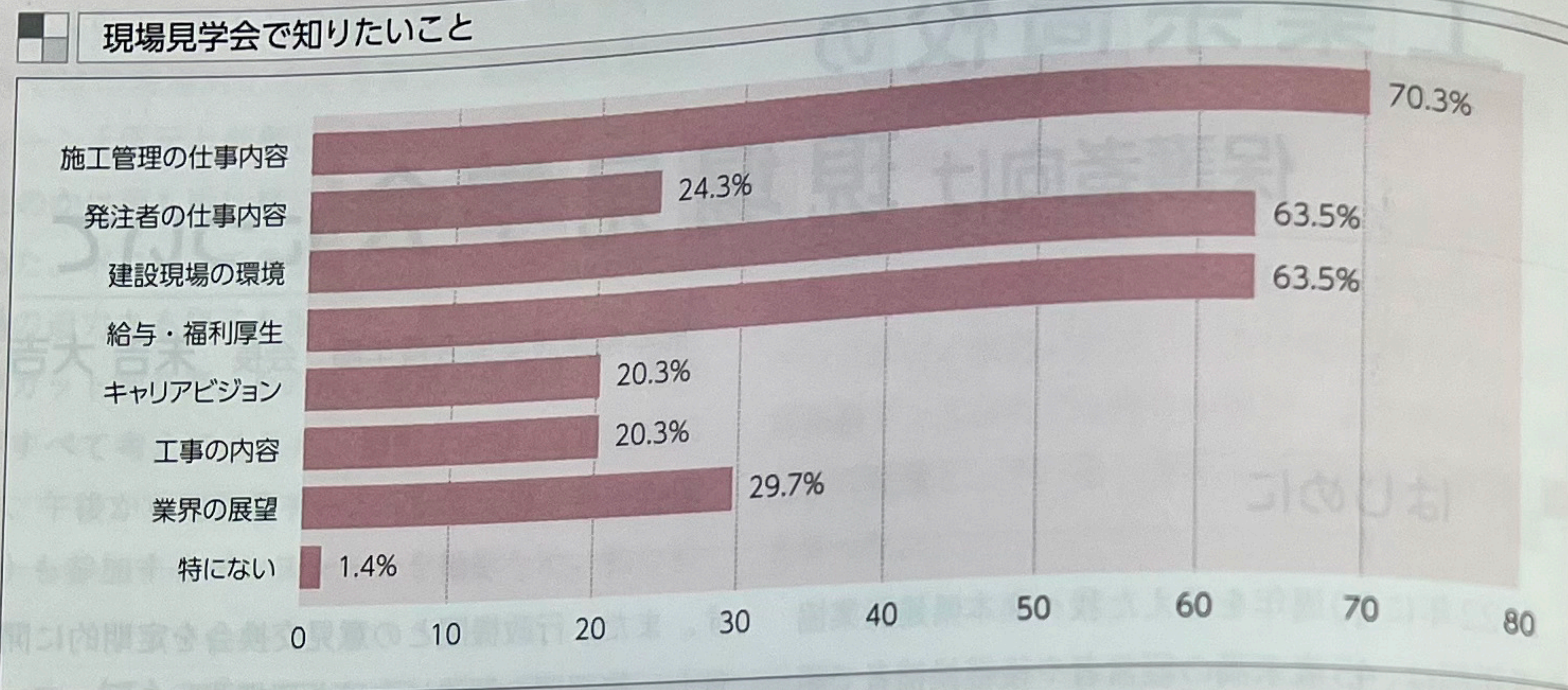
保護者との相互理解を深めていくためには、建設業の現状を知ってもらう必要があるため、県内の建設業団体で初めて、保護者を対象とした現場見学会を企画しました。

見学会の概要・当日の様子

見学会の実施にあたっては、保護者に対し事前に「建設業の仕事に対する理解度、や「見学会で知りたいこと、などをアンケート調査しました。それによると、理解度については、施工管理の仕事内容について「知らない」「あまり知らない」の回答が約75%に上り、多くが建設業の仕事内容を把握できていない現状が見えました。見学会で知りたいことでは、「施工管理の仕事内容」が

約70%と最も多く、「給与・福利厚生」(約63%)や「建設現場の環境」(約63%)にも関心が高いことが分かりました。

見学会当日は、熊本市内の工業高校2校から保護者約30人をはじめ、お子さんや学校の先生などにも参加いただきました。運営は青年部員約20人と、建設産業で働く女性で組織する「くまもと建麗会」の会員4人。発注者の国土交通省熊本



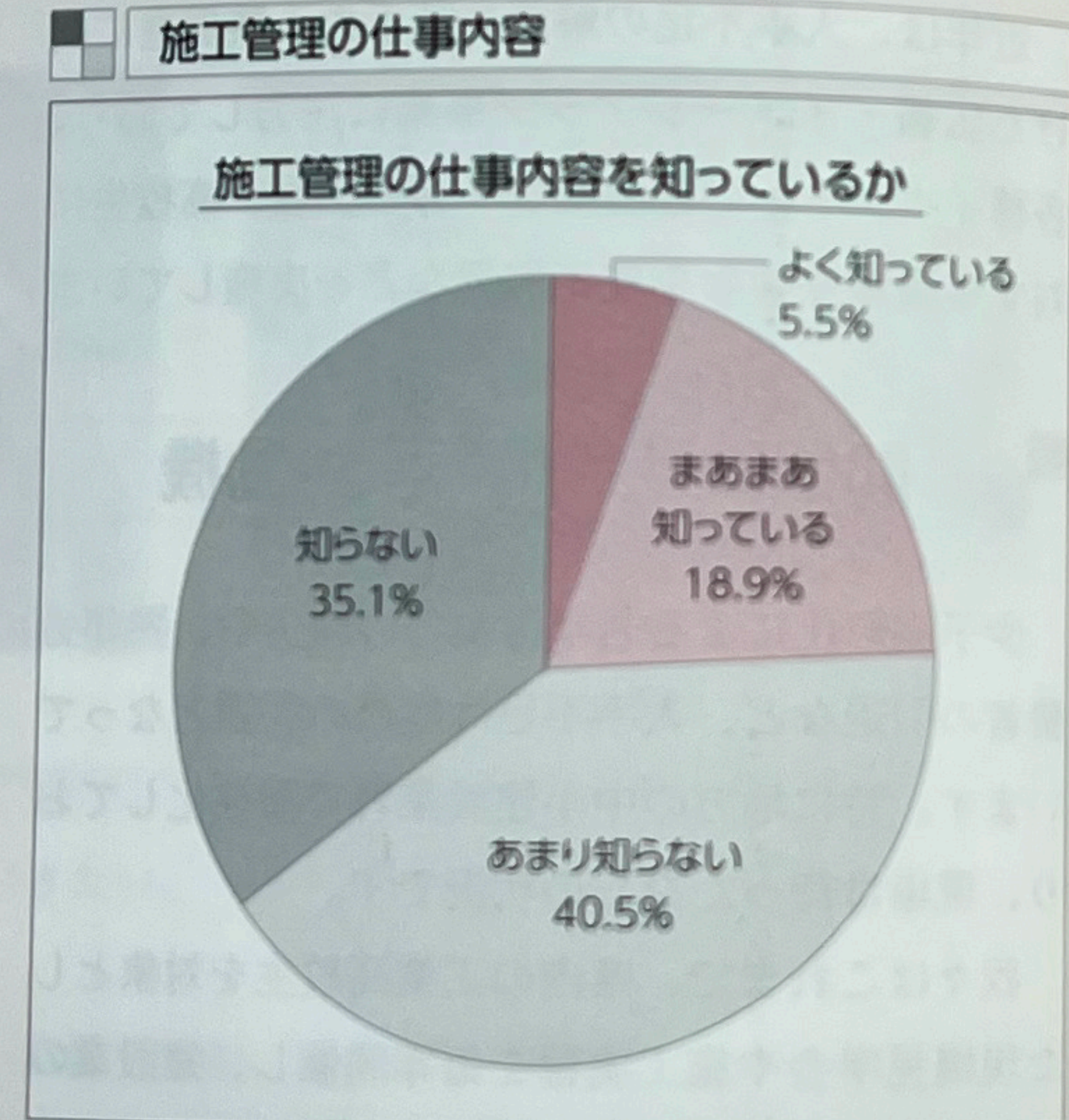
河川国道事務所や熊本県土木部の方々にも協力いただき、建設業についての講話（国交省、青年部員）、現場の見学、昼食を兼ねた懇談会などを通して、相互理解を深めました。

講話は、国交省職員と青年部員が担当し、発注者と施工者というそれぞれの立場から、仕事内容ややりがい、福利厚生などを伝えました。

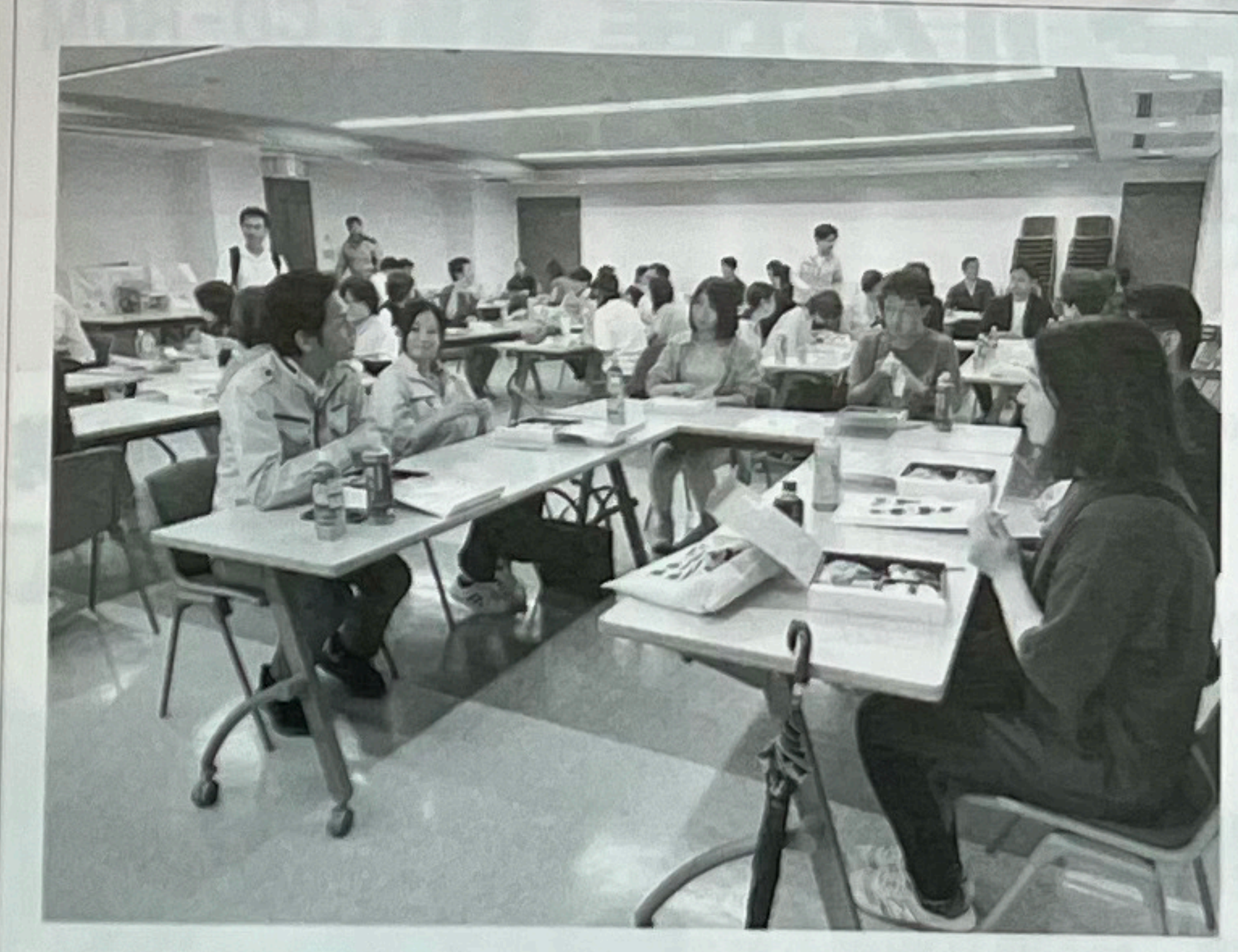
見学では、青年部員が代表を務める企業が施工する河川の堤防嵩上げ現場を案内し、階段や擁壁などの施工箇所を見て回りながら、実際に働く環境の雰囲気などを体感してもらいました。工事関係者による事業概要や施工技術の説明もあり、保護者の方々は常にメモを取るなど、熱心に耳を傾けていました。



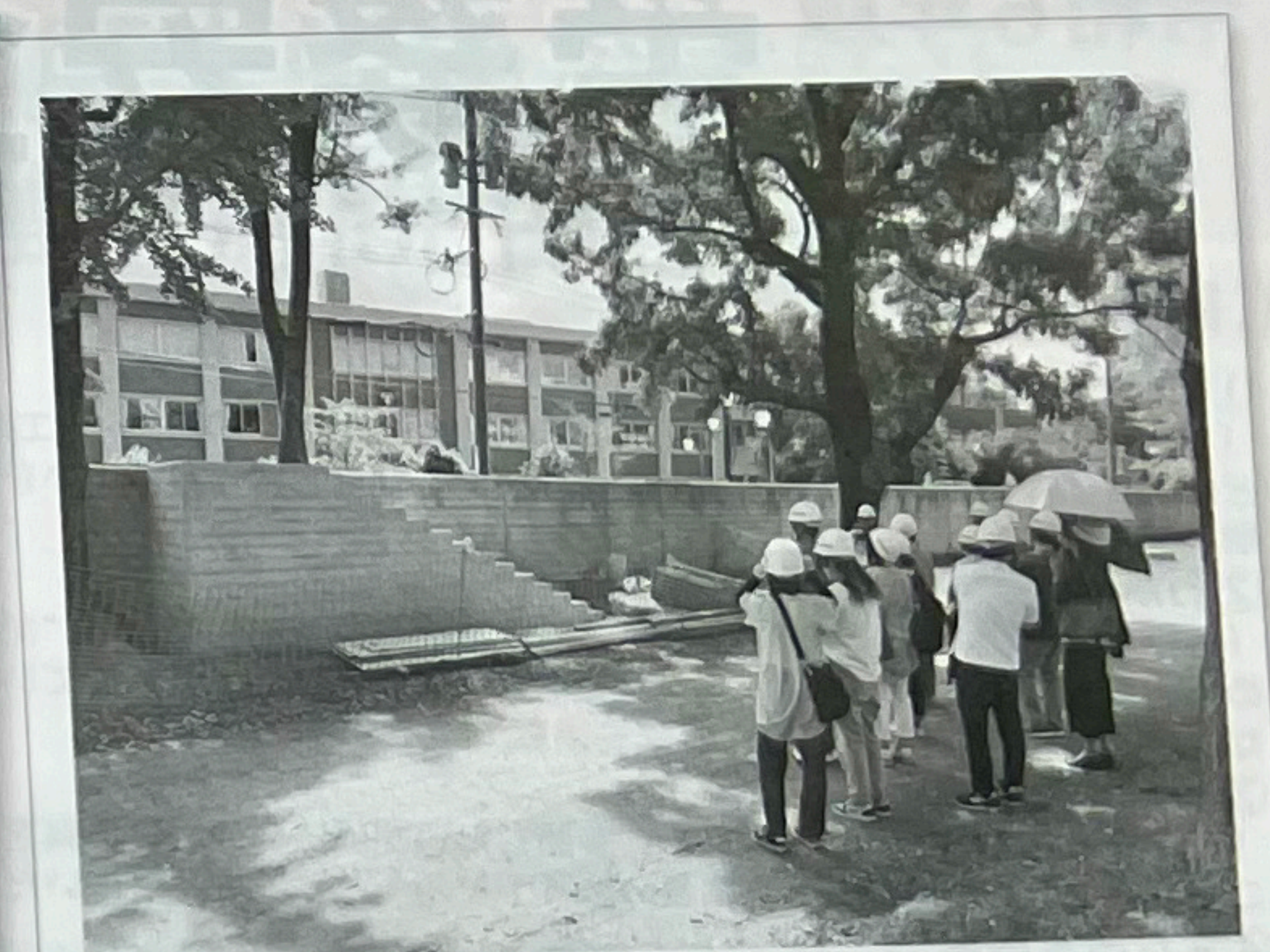
見学会当日の様子



見学会当日の様子



見学会当日の様子



見学会当日の様子

その後、昼食を兼ねた懇談会を開催し、和やかな雰囲気の中で、意見交換を行いました。保護者の方々からは、思わず回答に詰まるような鋭い質問などもありましたが、「こういう時に胸を張って答えられる業界にならなければ」と課題を改めて認識させられる貴重な機会となりました。

見学会の後に実施したアンケート調査では、「自分の持っていた業界へのイメージが良い方へ変わりました。子どもと就職について話す際に、具体

的な説明ができそうです」「このような機会をたくさん設けてほしい。私たちの当たり前が当たり前ではないことが伝わってきて、本当に勉強になった」と前向きな意見を多くいただきました。

保護者の大半が知らなかった建設業の仕事内容についても、参加した全員が「よく理解できた」「理解できた」と回答するなど、見学会が保護者に対する周知活動として有効な手段であることが立証されたと思います。

まとめ

多くの参加者から「こういう機会を設けてもらって良かった」「建設業がどういう役割でどういう仕事なのか分かった」との声をいただき、本当に開催して良かったと思っています。一方で、幾つかの改善点も見つかりました。

まずはリアルな現場を見てもらうのが難しいということ。事前に開催曜日や希望日のアンケートを取り、比較的多くの方に参加いただける土曜日の開催となりましたが、現場に機械オペレーターがおらず、建設機械も動いていない状況だったので、リアルな仕事環境を伝えるのが難しいと感じました。保護者が参加しやすい休日にかに現場を見せるのか、日程調整を含めて検討していかなければなりません。

また参加者を募る際に、学校側に見学会の周知を依頼しましたが、その後は学校任せにしまった部分もあり、もっと積極的な周知活動ができたのではないかと反省もあります。

このほか、参加者からは「参加企業の紹介があれば良かった」「涼しい時間帯に開催してほしい」などの意見をいただいています。

今後は、改善点を踏まえてより良い見学会を追求していくとともに、継続して実施できるよう検討を重ねていきます。イメージアップ事業をはじめとする様々な活動を通して、建設業の健全な発展の一助となるようこれからも精一杯活動していきます。